

『健康サポート薬局の地域への役割 ～自治体・多職種との連携の取り組み～』

総合メディカル株式会社 そうごう薬局豊前店

真面 友隆

【目的】

平成 28 年度から健康サポート薬局制度が開始して 2 年が経過し、平成 30 年度 8 月時点で 1000 軒以上の薬局が届出を行っている。健康サポート薬局は地域包括ケアシステムの中で、地域住民の健康の維持・増進に対して、多職種と連携をとりながら役割を果たすことを求められているが、これらはまだ手探りの状態であり薬局には一層の努力が必要とされている。そうごう薬局豊前店では平成 28 年 10 月に健康サポート薬局の届出を行い、これまでにかかりつけ薬剤師を中心として、自治体との連携、多職種との連携の取り組みを行い、一定の成果があったので報告する。

【方法】

健康関連商品充実、測定機器（InBody 測定・血管年齢測定・脳年齢測定）を設置し、利用した患者に対し、かかりつけ薬剤師よりアドバイスを実施した。

さらに、自治体との連携として、毎月、市主催の健康相談会に参加し、健康測定をしながら薬剤師による相談会を実施。また、多職種との連携として、平成 25 年より多職種連携会議に参加。在宅医療の提供体制から住民啓発など地域の様々な課題について検討した。

【結果】

かかりつけ薬剤師が関わったことにより、測定利用者にフレイル予防・食事等のアドバイスを行なった事例があった。また、市主催の健康相談会において、これまでに 20 回以上の相談会を実施し、毎回 15 人前後の参加者があった。医療福祉イベント「ふくしまつり」に参加、200 人近くの参加者に健康相談会を実施した。

多職種連携検討会の参加を通して、各職種の代表と顔の見える関係を構築でき、相談を受ける機会が増えた。また、患者に受診勧奨を行った際も、医師に対してだけでなく介護支援専門員などとも速やかに連携を取ることができた。

【考察】

かかりつけ薬剤師が、健康面・生活面などの予防医療に関与することで、健康サポートの質を高めることができた。また、自治体や病院・介護施設・地域包括支援センターと連携を取ることで、薬局の健康サポート機能をより多くの地域住民ならびに多職種のスタッフに知ってもらえることができた。これらの取り組みを通じ、健康サポート薬局として、一定の役割を果たすことができていると考える。

今後は住民が気軽に立ち寄り、相談相手になれる薬局であるだけでなく、さらに多職種との連携を深め、積極的な情報発信・情報収集等続けることで、地域住民・多職種にとって、「地域のあらゆる健康増進の起点」と、なっていきたいと考える。